

◆トピック◆

## 「棲神」 創刊誌 第壹号発見さる!

「棲神」創刊誌が公刊されたのは、大正二年十月三十一日である。既に六十年の星霜を数える。夙に、本学に於てはこの記念すべき第壹号誌の探索に努めていた。

時しも、昭和四十八年二月六日、静岡県富士市増川・妙蓮寺住職則武海園師より、その格護秘蔵せる「棲神」第壹号誌が寄贈された。数年前から、なかば壹号誌の現存を疑



紙表誌号第1

懼し、探索に難渋していただけに、この寄贈は大きな朗報である。此処に特記して、謝意を表します。

※ 発見された創刊誌は全く破損もなく、歴史の重味を感ずる。体裁はA五型・六十二頁・和紙の謄写版・糸綴じである。

本誌創刊号の発見は、近代祖山教学の原点を再発見するものであろう。本学は祖山学院・身延山専門学校・身延山短期大学へと変遷、呼称が変わってきた。その間、「棲神」は教学伝統の証<sup>あかし</sup>として、また学術研究の機関誌となり、常に同学同窓研鑽の灯<sup>とも</sup>となってきた。勿論、創刊当初は学友会誌的ニュアンスが濃く、同窓諸賢の研鑽随感を吐露する場であった。然し、号数を重ねるにつれて学術研究・日蓮教学研究の場へと質量ともに充実発展をとげ、いまや我国の仏教学界・日蓮教学発展の上に果した裨益は誰人も否定しないであろう。

本誌の発行を企画され、創刊号を飾った諸先賢、小林是恭・伊藤海聞・望月海伯・麻生是忍・岡観孝・辻能学・黒籙学勇・早川玄頂諸師はすでに亡い。為宗護法、その辛苦に想いをいたすとき、感無量なるものがある。いま、「棲神」第四十五号を発刊するに当り、先師の法薫を顕彰し、併せて、本誌の充実と発展とを祈ってやまない。

※ 掲載せる写真は、本学助手、林是晋君に勞を煩わした。

(48・2・10・町田是正藏)